

MEDIA STATION IN SETAGAYA WARD ~これからの図書館建築の提案~



現代ではインターネットが発達し、自宅にいながらも多くの情報を得ることができる。それにも関わらず、図書館へと足を運ぶ多くの人々がいる。大きな中央図書館から、町の小さな図書館まで、地域の人々に親しまれ使われている。人々の利用の仕方は様々である。新聞や雑誌を読みながらくつろぐ人、机に向かって勉強する人、子供に絵本を読み聞かせる母親、教養を深めるお年より、たいてい目的もなくふらっとやって来る人などである。人は勉強したり、情報を得るためだけに図書館に来ているのではなく、くつろぎにきたり、人と出合いにきたり、何気なくふらっと訪れたりしているのである。特に、ソファや畳などリラックスして本の読めるコーナーや、新聞・雑誌コーナーに人々が集まっている。今後このような身近で、誰もが「気軽に利用できるスペース」の需要が増えていくのではないかと考える。

図書館を誰もが気軽に入れる公園や街路のような雰囲気を持った場所にすることを目指した。一般的な図書館では、「気軽に利用できるスペース」はエントランスの周りに置かれていることが多い。このようなエントランス周りの「気軽に利用できるスペース」が、図書館全体に及んでいるものを提案する。

敷地は、世田谷区の比較的住宅が多い場所で、世田谷区立中央図書館がある。現在の図書館の諸室面積や収蔵量を基本としながら、新たな提案を行う。



■ site

生涯学習施設である図書館は、地域に根付き、幼い子供からお年寄りまで、多くの人々が利用しやすい環境にあるべきである。東京都世田谷区の比較的交通の便のよい住宅地に、計画を行う。現在、この敷地には「世田谷区立中央図書館+教育センター」がある。敷地の近くには、保育園、小学校があり、課外授業などに、利用しやすい環境にある。

■ problem

現在の世田谷区立中央図書館は、教育センターと一体となった建物である。小中学校の移動教室を実施するための施設（プラネタリウム・郷土学習室など）や、教職員の体験研修をするための施設（コンピュータ・科学実験など）がある。しかし、プラネタリウムを除いて、あまり一般には開放されていない。また、図書館部分と教育センター部分では、明確な境目があり、一般の人は立ち入り禁止になっている。生涯学習の場である図書館の学習施設を、一般に開放できるシステムや構成にするべきだと考える。



BACKGROUND

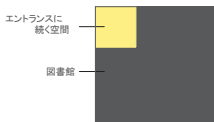
図書館の設計にあたり、人々が気軽に訪れることができ、ふらっと来た人が滞在できることが前提であると考えた。事例研究から得られた結論をもとに、図書館の基本ダイアグラムを作成する。

■ STEP I. 人々にとって身近な要素を置いた《エントランスに続く空間》のあり方

「事例研究①:なぜ現代の図書館に人々が集まるのか」において、建築という視点から、各時代の代表とされている図書館の平面構成の変化を分析した。その結果、《エントランスに続く空間》のあり方が重要であることがわかった。最近の公共図書館では、新聞や雑誌、リラックスして本の読めるコーナー、展示コーナーなど人々にとって身近な要素を配置し、入りやすく、親しみやすい雰囲気をつくりだしている。

私は、このような人々にとって身近な要素を《エントランスに続く空間》だけでなく、図書館全体に行き渡らせることで、図書館全体がより身近なものになっていくのではないかと考えた。例えば、専門書のコーナーに見向きもしない人もいると思うが、そういった人にとっても専門書が身近になるような構成を持った図書館にできるのではないかと。

■ 一般的な図書館



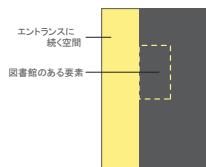
■ 提案する図書館



■ STEP II. 人々をとどまらせる《エントランスに続く空間》のあり方

「事例研究②:人々を惹きつける《エントランスに続く空間》のあり方」において、《エントランスに続く空間》が建築全体に行き渡っている建築を分析した。エントランスに続く空間が建築全体を貫いていても、単なる廊下になってしまえば意味がない。人々がとどまる《エントランスに続く空間》と動線になってしまっている《エントランスに続く空間》の比較分析を行った。その結果、エントランスに続く空間に要素を貼り付けるのではなく、要素を積極的に飛び出させることが重要であることがわかった。

■ 廊下になる《エントランスに続く空間》



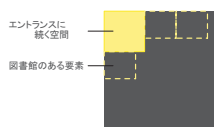
■ とどまらせる《エントランスに続く空間》



■ STEP III. 提案する図書館のダイアグラム

従って、私の提案する図書館のダイアグラムは次のようになる。《エントランスに続く空間》が図書館全体に渡り、そこに図書館の各要素が、飛び出してくるという構成を持つ図書館を提案する。

■ 一般的な図書館



■ 提案する図書館



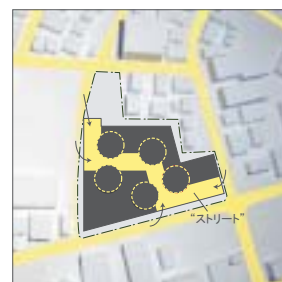
■ STEP IV. 「提案する図書館のダイアグラム」と「敷地との関係」

敷地の特性に着目しながら、提案する図書館のダイアグラムをあてはめてみる。特に人の流れを重視し、二つの人の流れ（大通り、散歩道）を取り込むように、《エントランスに続く空間》を配置する。「大通り」「散歩道」の延長としての、道のような《エントランスに続く空間》をつくることを意図する。この《エントランスに続く空間》を「ストリート」と呼ぶことにする。

■ 敷地の条件



■ ダイアグラムをあてはめる



SITE DATA

場所: 世田谷区猿轡3丁目16番  
用途地域: 第2種住居専用地域  
建築率: 70%  
容積率: 200%

防火地域: 準防火地域  
高度制限: 第2種高度地区  
敷地面積: 6,545㎡

## COMPOSITION

建築の構成は、「ストリート」を中心に成り立っている。「ストリート」には、リラックスして本の読めるスペース、新聞・雑誌コーナー、カフェ、展示コーナーなどが配置されている。そして、自然に「本の空間」へと続いて行く。

### ■second floor explanation

知識を得るだけでなく、ワークショップなどを通して、活動を体験できる「体験室」がある。「体験室」は、「ストリート」に張り出すような形で配されている。ガラス張りであり、天井を設けていないため、視線としても、音としても「ストリート」と繋がっており、「ストリート」を歩いている人々は、「体験室」の活動の気配を感じることができる。

### ■first floor explanation

「ストリート」は、人々にとって身近な要素（雑誌、新聞、カフェ、展示コーナーなど）を配した空間であり、図書館全体が、この空間を中心とした構成となっている。この空間を歩いていると、図書館全体の構成や様子を伺うことができる。本棚が目に飛び込んできたり、様々な活動が感じられる。「本の空間」は、「ストリート」から枝分かれするように連続しており、自然に本の空間へと導かれていく。ポピュラー図書館の置かれているスペースである。



2F MODEL



1F MODEL

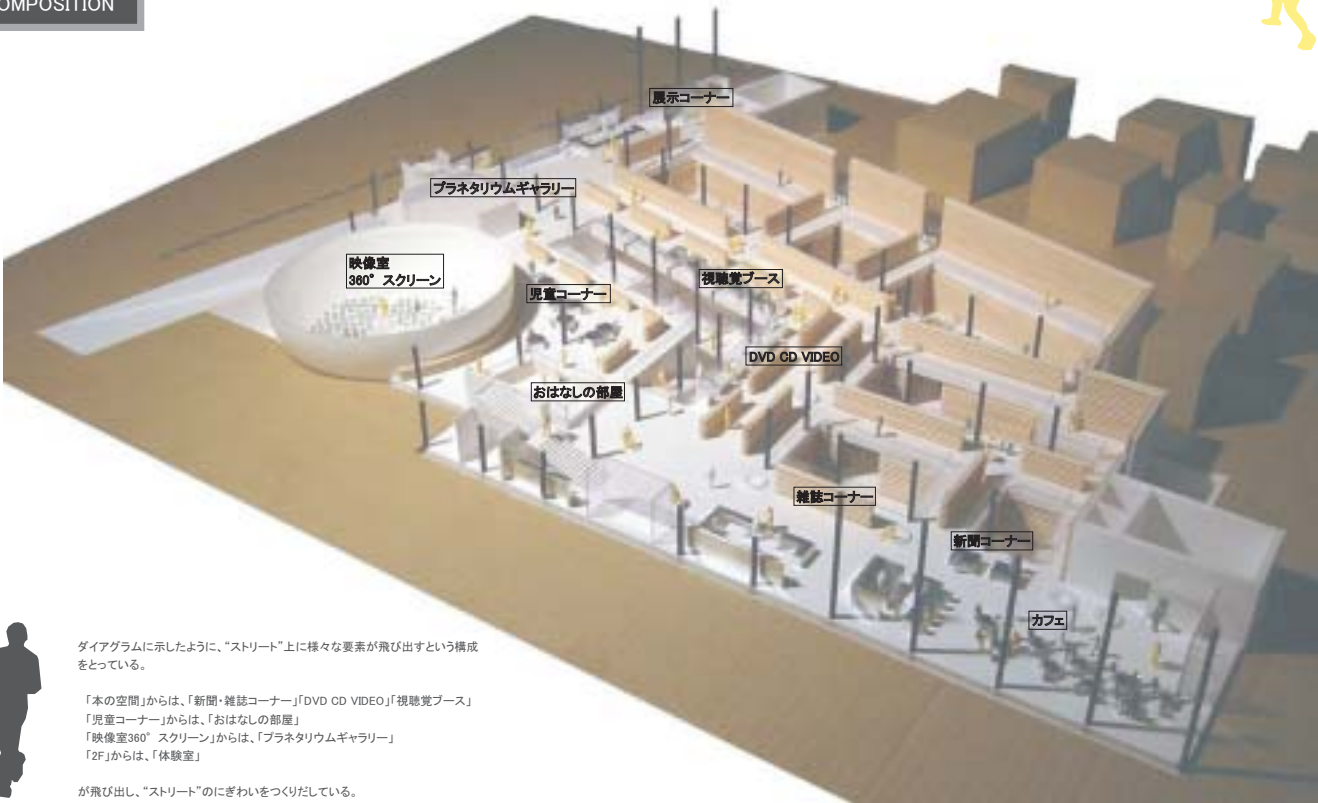


B1 MODEL

### ■basement floor explanation

「本の空間」は、本棚によって分野ごとの囲まれた空間を作り、本に包まれた落ち着いた読書空間をつくらせている。この空間を「本に包まれた読書スペース」と呼んでいる。上を見上げると、ポピュラー図書館の本棚があり、まさに本棚の中にいるといった雰囲気である。

## FIRST FLOOR COMPOSITION



ダイアグラムに示したように、「ストリート」上に様々な要素が飛び出すという構成をとっている。

「本の空間」からは、「新聞・雑誌コーナー」「DVD CD VIDEO」「視聴覚ブース」  
「児童コーナー」からは、「おはなしの部屋」  
「映像室360°スクリーン」からは、「プラネタリウムギャラリー」  
「2F」からは、「体験室」

が飛び出し、「ストリート」のにぎわいをつくりだしている。





## FIRST FLOOR

### ■シーケンス

“ストリート”を歩いていると、様々な人々の活動が目飛び込んでくる。上を見上げると、“体験室”があり人々の活動が見え、音も聞こえてくる。そして、本棚の中に自然に入っていく、“ストリート”が枝分かれするように、“本の散策路”が続いており、“本の空間”へと誘われてゆく。「本棚の配置」と「道の幅」を変化させることによって、賑わいのある“ストリート”から、“本の散策路”そして、静かな雰囲気を持った“本の空間”へと緩やかに変化していく。



1 エントランスから“ストリート”を望む。カフェで寛ぐ人や、新聞、雑誌を読んでいる人々が目に飛び込んでくる。上を見上げると、“体験室”があり人々の活動が見え、音も聞こえてくる。



2 さらに、“ストリート”を進んで行く。VIDEO、DVDコーナーである。道幅が狭くなり、徐々に“本の散策路”へと変わっていく。



3 “本の散策路”は、“本の空間”へと進んでいく。道筋を示すように、上方からは、柔らかな光が差し込んでくる。



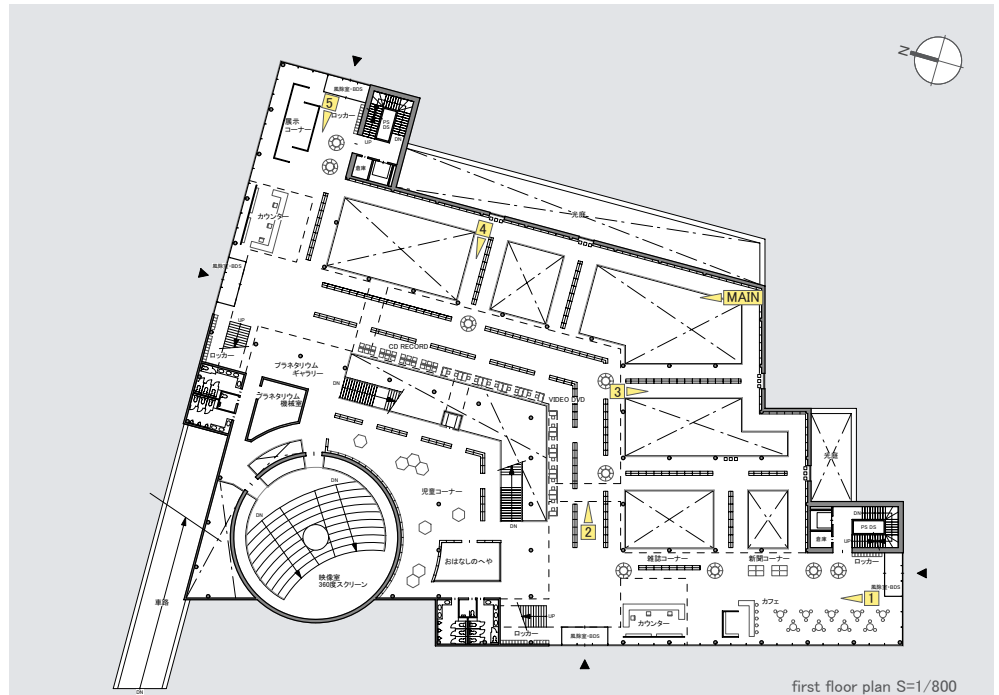
4 “本の空間”から、“ストリート”を望む。光が差し込み、明るく照らされているところが、“ストリート”である。この光は、“ストリート”の賑わいを表している。



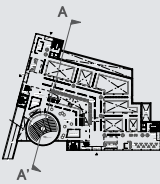
5 “ストリート”を振り返る。様々な人々の活動が見える。



MAIN “本の空間”は、本によって落ち着いた雰囲気をつくりだしている。下を見下ろすと、本に囲まれた読書スペースが見える。



### SECTION I



A-A' section S=1/800

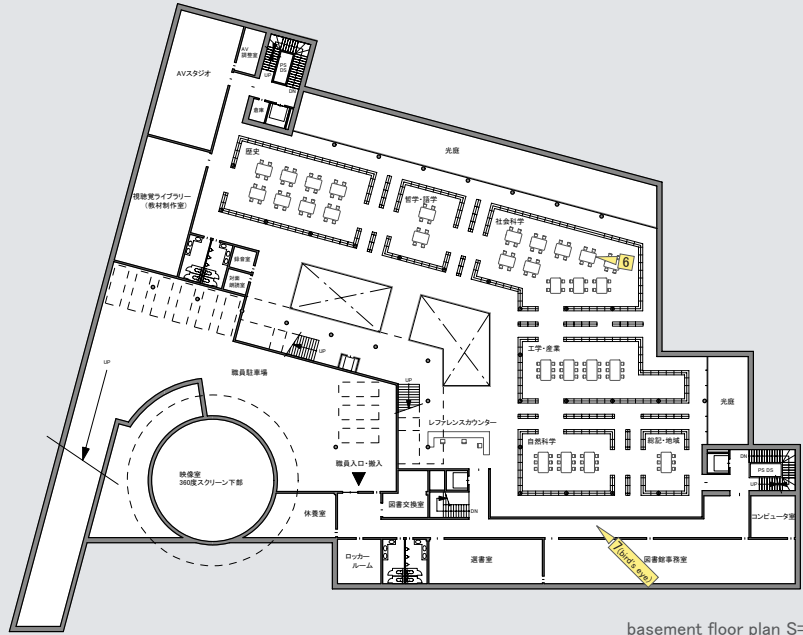
## BASEMENT FLOOR



6 読書スペースより開閉を見渡す。本によって、落ち着いた読書にふさわしい空間をつくりだしている。



7 B1“本の空間”を俯瞰する。本に包まれながらも連続した空間となっている



basement floor plan S=1/800

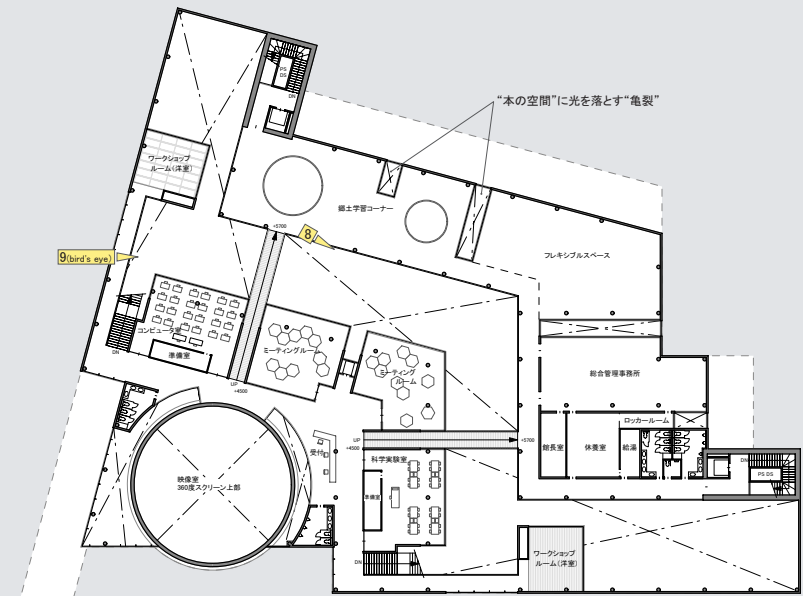
## SECOND FLOOR



8 2Fより“ストリート”を望む。2階からも“ストリート”の活動が見渡せる。1Fと一体となった空間である。



9 2Fを俯瞰する。張り出した“体験室”、屈折する“ストリート”、本の空間に光を運ぶ“亀裂”によって、連続しながらも、メリハリのある空間となっている。



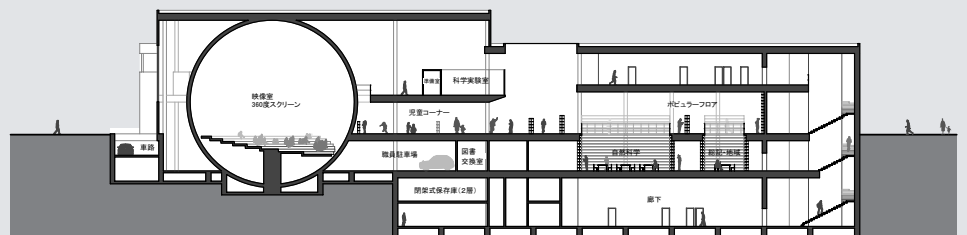
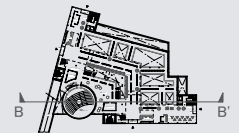
second floor plan S=1/800

## EXTERIOR



10 外観は、この建築の骨格である“ストリート”が表れるものとした。ガラス張りの部分が“ストリート”であり、人々の活動が歩いている人々から見えるようになっている。

## SECTION II



B-B' section S=1/800